

# 松山空港近くの海域で航空機事故に備えた総合訓練に参加

## 愛媛県水難救済会

平成28年9月9日、航空機事故に備えた消火救難総合訓練が松山空港近くの海域で、国土交通省松山空港事務所、松山海上保安部、県警、松山市消防局など45機関200人が参加して実施された。

この総合訓練は、昭和41年11月13日午後8時半頃、大阪空港（伊丹空港）発松山空港行きの全日空533便（YS-11）が松山空港沖に墜落、乗員、乗客50人全員が犠牲となった痛ましい航空機事故が発生して50年となる節目の年に、「乗員乗客135人を乗せた航空機が油圧システムのトラブルで空港西側の海上に墜落し、負傷者が多数出た」との想定のもと、関係機関が参加して大々的に行われた。

事故発生当時、松山水難救済会所属の「松山丸」なども出動、救助活動にあたっており、今回も愛媛県水難救済会ブルーエンジェル救難所所属の救助船「ひめ」が参加、海上の漂流者を揚収、救助して、松山海上保安部の監視取締艇「でねぶ」に引き継ぎ、岸壁で待機していた消防救急隊に引き渡した。



黄色のジャケットを着けた漂流者（左）を、救助する救助船「ひめ」

救助船「ひめ」を操船する愛媛県水難救済会友澤会長（ブルーエンジェル救難所長兼務）